

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204359
法人名	有限会社 誠友
事業所名	グループホーム「ふぁみり～大宮」
所在地	広島市西区大宮三丁目1番18号 (電 話) 082 - 509 - 0822

評価機関名	広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(21年8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	20 人	常勤 3人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 ~ 78, 000 円		その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円	
	夕食	350 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり		1, 0 0 0	円	

(4) 利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	4 名	男性	0 名	女性	4 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長尾医院、角田歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

太田川沿いの閑静な住宅街に、民家を改修したグループホーム「ふぁみり～大宮」があります。「一人ひとりのペースを大切に」を理念に、職員は入居者の要望に真剣に耳を傾け、本人の希望に沿った支援ができるように努めています。入居者は、畳の居室に今まで使用していた家具を持ち込み、我が家の生活と同じように過ごされています。食事においては、一人ひとりに応じた量や食べやすく材料を切ったり、食べやすい食器などきめ細かな配慮がなされている。看取り介護については、入居者や家族の希望に配慮し、家族と十分に話し合いをし、医師とも相談しながら、できるだけ希望に添いたいと考えられています。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点については、残念ながらこの1年間は改善の取組みがなされていない。今後は改善について、管理者と職員で話し合いを行い、また、本社担当者の積極的な理解と支援を得て、サービスレベルの向上に努めていただきたい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今年度は、職員の業務多忙な為に、管理者が自己評価を行ない、職員との話し合いはなされていない。今後は、自己評価や外部評価の改善点について、職員の業務改善を行い、職員の話し合いの場を設け、職員全員で取り組まれることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、やや不定期な開催となっています。施設の状況報告や地域の情報交換はされているが、地域と施設の関係については十分に話し合いが行われていないようです。今後は、本社担当者も出席され、地域の方々と話し合いを行い、地域の方々に支援される施設になられることを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情申し立て窓口は設置しているが、まだ苦情は寄せられていない。家族の面会時に家族からの要望を把握して、今後もサービス向上に努めていただきたい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入され、秋祭りには地域の方と楽しまれています。しかし、夜間の火災等の際には、職員一人では対応が困難なので、今後は日常生活で地域とのお付き合いを深め、地域住民に災害の協力をお願いし対応していただきたい。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、事業所の理念「一人ひとりのペースを大切に」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が朝・夕の申し送りの際に、理念について繰り返し職員に話をし、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。町内の秋祭りには、神輿がホームの玄関に来て、入居者を楽しませている。町内会の清掃行事等は、職員が業務に忙しく参加できないが、今後は町内会や地域の行事に協力したいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について、管理者は理解しているが、職員はまだ十分に理解されていない。また、外部評価の結果については、議事録がホーム玄関に置いてあり、家族・職員が閲覧できるようになっている。しかし、前年度の外部評価の改善点について、職員等と話し合いは行われておらず、改善の取り組みがなされていない。	○	外部評価の改善について、今後は施設内で話し合いを持ち、法人の責任者とも連絡をして、介護サービスの向上に努めていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催されることになっているが、出席者の都合や職員の業務などで、定期的には開催されていない。会議では、施設の状況説明や地域の行事等の情報交換はなされているが、出席者とサービス向上についての話し合いは十分になされていない。	○	事前に開催日を決定し、参加者の調整を行い、2か月に1回の定期開催をするように努めていただきたい。また、参加されている地域の方との関係を密接にして、災害時等にはお互いに協力する関係を構築していただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に入居者の生活状況を市の担当職員と連絡を行っている。また、介護保険の内容について分らない時には、随時相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手紙で生活状況を報告している。また、入居者で社会福祉協議会の「かけはし」を利用している人には、毎月、状況・金銭の出費について連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立て窓口は設置しているが、今まで申し立てはない。家族の面会時には、話をよく聞き、要望に沿うように努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員移動時には、しばらくの間、職員を余分に配置し入居者が混乱しないように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は、管理者が同じ時間帯で一緒に働いて、指導している。新人研修マニュアルは現在作成中で、もうすぐ活用される見込みである。外部研修は、参加はしたいと考えているが、職員の業務が忙しくなかなか参加できない。	○	施設のサービス向上には職員の研修は不可欠と思われるので、職員が参加できる機会を増やしていただきたい。また、施設内で定期的に勉強会やミーティングの機会を創設し、職員が勉強に取り組み、サービス向上につなげていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的に他の施設の職員から助言をしてもらうことはあるが、職員が地域の同業者と交流する機会はまだまだ少ない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される本人が、この施設で生活されることを十分に理解し納得されるように、何回も見学をしていただき入居されるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者一人ひとりと接する時間を大事にしている。また、手伝いをしていただいた際には、感謝の意を言葉できちんと伝えるようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や希望は、日常生活の会話の中から職員が聞き取り、こまめに記録を取り把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状況や問題点については、職員の申し送り時や、生活記録簿にこまめに記載し、職員がお互いに話をし、問題点を把握するようにしている。その後、計画作成者が介護計画を作成し、職員全員で、介護計画に基づき支援している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成者が、職員から状況を聞いたり、家族の面会時に話を聞き、随時介護計画を見直している。作成された介護計画の説明が家族や本人に十分説明できていない。	○	介護計画について、家族や本人に介護計画の内容を詳しく説明し納得されるように今後は取り組んでいただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診や諸手続きには、職員が同行している。また、買い物希望があれば同行したり、体調不良で同行できない場合には、職員が代行し買い物に行くなど、本人の希望に沿った支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、協力病院の往診は歯科以外行われていないが、入居者が受診困難な状況になってきているので、往診を検討している。夜間や、緊急時には、電話で医師と相談し対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設としては、看取りの介護を行っていきたいと考えている。しかし、現在の状況では、医療行為が必要な入居者に対応できないことがあるので、入所時に家族・本人に説明を行っている。また、本人・家族の希望や意向を常に確認し、医師と相談し介護を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入浴時や排せつ時の言葉かけには十分注意すると、職員を常に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や要望に、職員はいつも真剣に耳を傾けて、本人の意向を理解するように努めている。また、本人の希望に沿った介護ができるように考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や季節の行事には、入居者の要望を聞いた献立を作成するようにしている。また、病気により食事に注意が必要な入居者には、適切な対応を行っている。一人ひとりに応じた量や、食べやすいように細かく切ったり、食べやすい形状の容器を用意するようにきめ細かい対応をしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべくゆっくり入れるように、また入居者が同性の介助者を希望されれば、対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気晴らしとして、花見やドライブを行っている。また、室内ではトランプやゲームなどを行っている。入居者の得意な雑巾縫いや洗濯物たたみなど、随時声かけをして、手伝っていただいている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今までは、食事の買い物などをしていたが、入居者の体調不良などで、なかなか散歩ができない状況である。今後は、職員の業務改善を行ったり、いろいろ工夫をして、入居者が外出できる機会を増やしたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの意味を理解し、日中は鍵はかけていない。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導については、職員申し送りの際に、初期消火や避難の手順についてどのようにするかを話し合い、確認をしている。	○	夜間の火災等の際には、職員が一人で対応するには困難であるので、地域住民の協力を要請し災害に対応していただきたい。日常的な地域住民との付き合いを大事にし、運営推進委員会でも協力を呼び掛けていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取には十分に注意し、摂取状況を記録している。また、体調が悪い方には、個別に対応している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音に敏感な方が多いので、扉の開閉やテレビの音量に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は家族と話し合い、今まで使用した家具を持ち込み、住みやすい環境を作り、生活されている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム「ふぁみり～大宮」

評価年月日 H21 年 9 月 18 日

記入年月日 H21 年 8 月 18 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名 大久保 ちか子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	利用者様の声に耳を傾け 要望の添えるよう支援を行う。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「一人ひとりのペースを大切に」と 常に心がけ、状態の把握に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	推進会議を行うことで理解して いただけるよう話している。 ご家族様へ面会時に話している。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者様の心理状態や健康状態もあり、 立ち寄りはないが、日常の挨拶は行っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内のお祭等、利用者様の体調を 考慮しながら参加している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	話し合いは行っているが、取り組みまでには至っていない。	○	研修等で、職員のスキルアップをし取り組んでいきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義、目的を理解し改善に向け取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の状態や空き室状況 又、サービスの向上につながる話し合いに向け努力している。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町担当者の参加はないため 今後 参加も願いサービス向上につなげていきたい。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	社会福祉協議会「かけはし」の利用があるため、話し合いながら支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、職員一人一人が、心がけ防止に努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退居前、入退居時に説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者様の声に常に耳を傾け 何かある時は、改善に向け話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時や手紙にて状態等 報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立て窓口を設けている。 意見があった際は、早急に改善できるように話し合っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝、夕の申し送り時や、日頃から 気づいた時に話し合うようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるよう、職員に 協力を仰ぎ調整している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者様にはあえて伝えないようにしている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員確保も困難な為、職員全員が研修に参加するのは難しい。 ホーム内で基本を忘れないよう話し合いながら 介助している。	○	全員が何らかの研修に参加できるよう努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	相互訪問等は行っていないが、 紙面での情報交換をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフ同士、コミュニケーション が、取れるような機会を作っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	得手、不得手を見極め、それにより 役割や勤務体制を組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談時に、本人様から話されることは 少ない。入居後、落ちついてからはなされる ことが、多いため、その都度、受けとめるよう にしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時、しっかり話をきくようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームが本人に合っているか 今必要か、本人もまじえて話している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	納得の上の入居を心がけているため、 本人、家族に必ず見学に来ていただく、 入居後は馴染むまで様子を見る。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、信頼 関係を築き日常生活を過すようにし お互い様の気持ちと感謝の気持ちを心がけている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に状態を伝えている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時に、しっかり話をしたり、写真を 撮ったりしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人の面会や外出等		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知症のレベルに応じて支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等で退居となった場合、退院後再入居できるようにすることもある。 いつでも、相談していただけるよう伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1	一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	共同生活の為、全て希望に添うことは難しいがなるべく意向、希望に添えるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族・本人から生活歴を聞き、なるべくリズムを崩さず生活できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活記録で一日の状態が把握できるようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の状態を常にスタッフ同士で話し合い、家族の思いや、かかりつけ医への相談、助言を元に作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	朝、夕の申し送り時等で、常に話し合っているため、変化が生じた場合は速やかに対応している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録に気づき等、細かく書くことにより実践に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出、外泊等は支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要性に応じて、協力を要請している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	意向、必要性に応じて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	意向、必要性に応じて対応していきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望のかかりつけ医があれば支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診の際、日頃の状態を伝え相談している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医に受診の際、相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際、情報交換や面会等、できる限りの支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	常に家族と連絡を取り、かかりつけ医と相談しながら、スタッフで話し合い意向を確認し、対応している。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した時点で終末期も視野に入れ、ホームで見れる場合はかかりつけ医の協力のもと、支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	情報提供書に細かく書き、情報交換している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけや対応には十分気をつけている。(入浴時等)個人情報の取り扱いにも気をつけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が納得できるまで、わかりやすく短かめに話している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、ティータイム以外自由に過ごしていただき、掃除等やりたいという希望があれば支援している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理、美容は希望がないかぎり、ホームが お願いしている訪問カットを利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりに合わせた量や、食べやすいよう カットしたりしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	疲病等により必ずしも望むものは楽しめないが 誕生日等は好みの物を用意している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンから時間を決め誘導や促しをしている。 本人の様子を見て誘導を行う。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望には添えていないが、ゆっくり入れるようにしている。 着脱衣時は他者が入らないよう配慮する。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室内の温度に気をつけたり、必要に応じて、就寝時でも電気をつけたままにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	スーパーの袋たたみや新聞たたみ掃除等、できる方ができる時にスタッフと行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持することはない。 無くしたり、物盗られにつながる為。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	車が必要な時は日を改める時もあり。 職員確保も難しいのと、希望がないため実施していない。	○	希望があれば支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい気持ちはあっても体力的に断念されることあり。ホームで外出行事を行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも可能。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間内であれば、何時間過されてもかまわない。 又、外出も可能。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、全て開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者様がどこにいるのか確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご家族に相談したりし、様子を見ながら行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	センサーマットの使用や確認を心がけている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	訓練は行っていないが、初期対応は常に口頭で申し送っている。(連絡網活用) 応急手当の冊子あり。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難誘導などは、話し合いながら方法を身につけている。地域の人々の協力等は推進会議の場で話し、働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族には、その都度説明し、良い暮らしができるよう話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、バイタルチェックを行い、変化を見ている。異変に気づいた時は、かかりつけ医に連絡し、受診または指示をもらう。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療ノートにまとめ、確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事、水分に気をつけ、かかりつけ医と相談し、必要な時は緩下剤も併用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	月 2 回、訪問歯科にて、ブラッシング等チェックしてもらい、日常も毎食後、声かけにて、行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事量、バランスに気をつけ、水分補給の時間も多くとり対応している。 摂取量等、記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	毎日、インフルエンザの予防接種を受けている。 食事、ティータイム時手指消毒を行っている。 手洗いは、しっかり声かけし行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は全て加熱処理し、必ず手袋着用し、食品に直接触れないようにしている。 乾燥機やハイターも使用し、管理に努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	夜間以外は、門扉は開放し、天気の良い日は玄関も開けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	戸の開閉音やTVの音量は気をつけている。 玄関に花を飾ったりしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでは、利用者同士、テーブル席では独りでと、利用者が選んで座っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的にはご家族にまかせているが、相談しながら工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日一回は必ず換気を行い、エアコン使用時は温度調節を定期的に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、玄関、階段に手すりをつけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	カレンダーや時計を居室内に置き、対応したり、メモ書きを渡したりし混乱を防ぐよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	足場が悪く、また、レベル低下もあり、楽しむことは無い。		